

にゅうぜん「まち・ひと・しごと」づくり戦略検証委員会〔第9回委員会〕

日時：令和8年8月25日（火）午後1時30分から

場所：入善町役場 大会議室

【委員からの主な意見】

委員名	内 容
大沼委員 〔みな穂農業協同組合〕	・指標値の「新規就農者数」は毎年増えているものの、農家の高齢化が進んでおり、令和8年度の米の生産出荷農家数は518戸で、500戸を切る勢いである。このような状況の中、農協・町・県・入善高校農業科が連携して、いかに就農人口を増やしていくのが課題である。農協においても学校への出前授業を通して農業のPRを行っており、関係機関との更なる連携・協力をお願いしたい。
飯田委員 〔入善漁業協同組合〕	・人口を増やす、町に残っていただくには指標値の「子育て環境や支援への満足度」が重要である。目標値が70.0%に対して令和6年度実績値で60.6%となっており、入善町の子育て支援は全国でもトップランナーとして重視している中、なぜ4割の方が満足していないのか、また、なぜ目標値まで届かなかったのか、その要因分析が大事である。他の地域から入善町に来ていただくには、子育て支援の施策は重要であり、指標値の結果を分析し、改善しながら次の施策につなげてほしい。
本多委員 〔入善町商工会〕	・商工会事業の源は青年部であるが、これだけ子どもが少ないと、果たして維持していけるのか漠然とした不安がある。また、商工会の会員数が減っていくことは、地域にとって決して良い影響はない。 ・A Iにより事務部門の省力化は進んでいるが、製造やサービス業における省力化投資がなかなか進んでいない。そこには、経営者が高齢化しており、10年20年先を見据えた投資がしづらいということがあるのだろうと思う。そういったことから、創業・起業に加えて事業承継に力を注いで、新陳代謝を高める取り組みもしていきたいと考えており、町の協力をお願いしたい。
上田委員 〔入善町小中学校長会〕	・本町の不登校生徒の割合は、全国・県平均を下回っているものの、20人を超える生徒が不登校であり、喫緊の課題となっている。スクールカウンセラー、スクールソーシャル

委員名	内 容
	ワーカー、心の教室相談員、特別支援教育コーディネーター等により組織的な対応を行っているところであり、今後も個々に応じたきめ細やかな対応を行っていききたい。一方でハード面の整備として、不登校児童生徒の学校内での居場所づくりとして「校内フリースクール」の設置を検討していく必要があるのではないかな。 指標値の「将来の夢や目標がある児童・生徒の割合」については、残念ながら目標値は達成していないが、小学校ではふるさと学習や現地学習を通して、ふるさと入善町への愛着を育んでいるほか、中学校については中学生議会や14歳の挑戦などを通して入善町を見つめ直す学習が系統的につながっている。このような活動を通して、ふるさと入善町での暮らしについて改めて考えることができおり、今後もぜひ事業を継続していただきたい。
森下委員 〔入善町金融協会〕	入善町の産業構造を令和3年の経済センサス活動調査で見ると、就労者数では製造業が1番、医療福祉が2番、卸小売が3番となっている反面、事業者数では卸小売がトップ、次に建設業、次に生活関連サービスという並びになっている。入善町では、企業立地や設備投資の支援という部分で、製造業への支援を重視しており、これは地域経済を支える効果が大きいということ、また、製造業は町内雇用の中心になりやすいという点からの政策設計と考えている。一方で、事業者数の面から考えると、現在の支援制度はやや偏りがあると感じている。設備投資は建設業、小売サービス業でも実施されており、中小企業全般を育成していくという観点では、これらの事業者も対象とする支援制度に充実させてもいいのではないかな。
深井澤委員 〔連合富山新川地域協議会〕	- 職場において、子育てや介護などの家庭の事情で、休暇や離職が余儀なくされるケースがあるが、人手不足の中、そのしわ寄せが現場の人に偏り、体を壊し社会的活動ができなくなったという意見も耳にする。その対策のための補助などがあれば周知してほしい。 - 全体を通してみると、町ではいろいろな取組みをしているが、正直、今知った施策もある。制度をもっとアピールし、町民が知る機会を増やしていけば、様々な指標値もどんどん改善していくのではないかな。

委員名	内 容
村田委員 〔入善女性団体連絡会〕	・町が取り組む一つ一つの施策は単独しているのではなく、必ず何かと何かがマッチングしている。例えば、入善町の美味しいお米でパックご飯が製造され、国内外に流通し、企業が大きくなっている。それによって若者の雇用の増加につながり、若い人が入善町に集まる。このような相乗効果で入善町がより良くなっていく。加えて、杉沢の沢スギなどの自然環境は町の財産であり、掘り下げていくと町にはいいところがたくさんある。少子化や高齢化が避けられない中においても、入善町の強みを生かして、どうしたらもっと住みよい町になるのかという思いを町民みんなが持つことで、活路が見い出せるのではないかな。
岡田委員 〔入善町PTA連絡協議会〕	・県立高校再編について、入善高校の存続が町の魅力に直結すると考えている。富山市に通学する時間的・金銭的コストの負担を考えると、IターンやUターンを検討する方々にとっては、入善町が選択の対象から外れる可能性が大いにある。教育・経済・人口の問題が密接に関わってくるため、包括的な対策を打っていただきたい。一つとして、高校再編に合わせて、遠方の高校への通学に配慮した通学費補助を検討していただきたい。二つ目に、外国人労働者が今後も増加していく中、日本語が話せない子どもと親が増加していくという課題があり、その対応として、経済活動に併せて教育ということも包括的に考えてほしい。 ・町内には中高生の子どもたちが勉強できる場所がなく、わざわざ黒部市まで行って勉強をしているという話を聞いている。隣町まで勉強しに行くというのは寂しい状況であり、学習環境を整えてほしい。
村田委員 〔入善町区長連絡協議会〕	・日頃から感じていることだが、地域に若い人がいない。地域ではいろいろな活動を行っているが、若い人をいかに呼び込むかが課題である。現在、地域の活動に対して町が助成しているが、地域がさらに盛り上がるよう、より一層強化してはどうか。そして、町外に出ている人が戻ってきてもらえるような意識付けができればいい。 ・近年、定年延長により高年齢化しても働いている状況であり、例えば、学童保育支援員や営農組合などの地域で働く成り手が不足している。労働環境が変わりつつある中、企業で働くのが全てではなく、地域での雇用というものも、より良いものだとアピールしていけたらいい。

委員名	内 容
浦田委員 〔入善町社会福祉協議会〕	・地域の担い手不足により、高齢者サロンや老人クラブが減少しており、地域の集いの場がどんどん少なくなっている。高齢者の就業率が上がっているなどの社会環境もあるが、地域の地縁組織に関わろうとする個人の考え方が変化しており、まずは自分、他の人のことは次というような価値観に少しずつ変わってきている。このような状況の中、どうやってこの地縁組織を維持していくのが大事である。 ・介護施設の入所待機者数は減少している反面、町内の社会福祉法人では、毎年人件費が上がり、損益分岐点が上昇する厳しい状況である。加えて、介護施設の人材が不足する中、今後10年20年維持していくためにも、60代の高齢者が介護分野で働くこともひとつの選択肢である。高齢者が介護分野への就労につながるよう協力いただきたい。